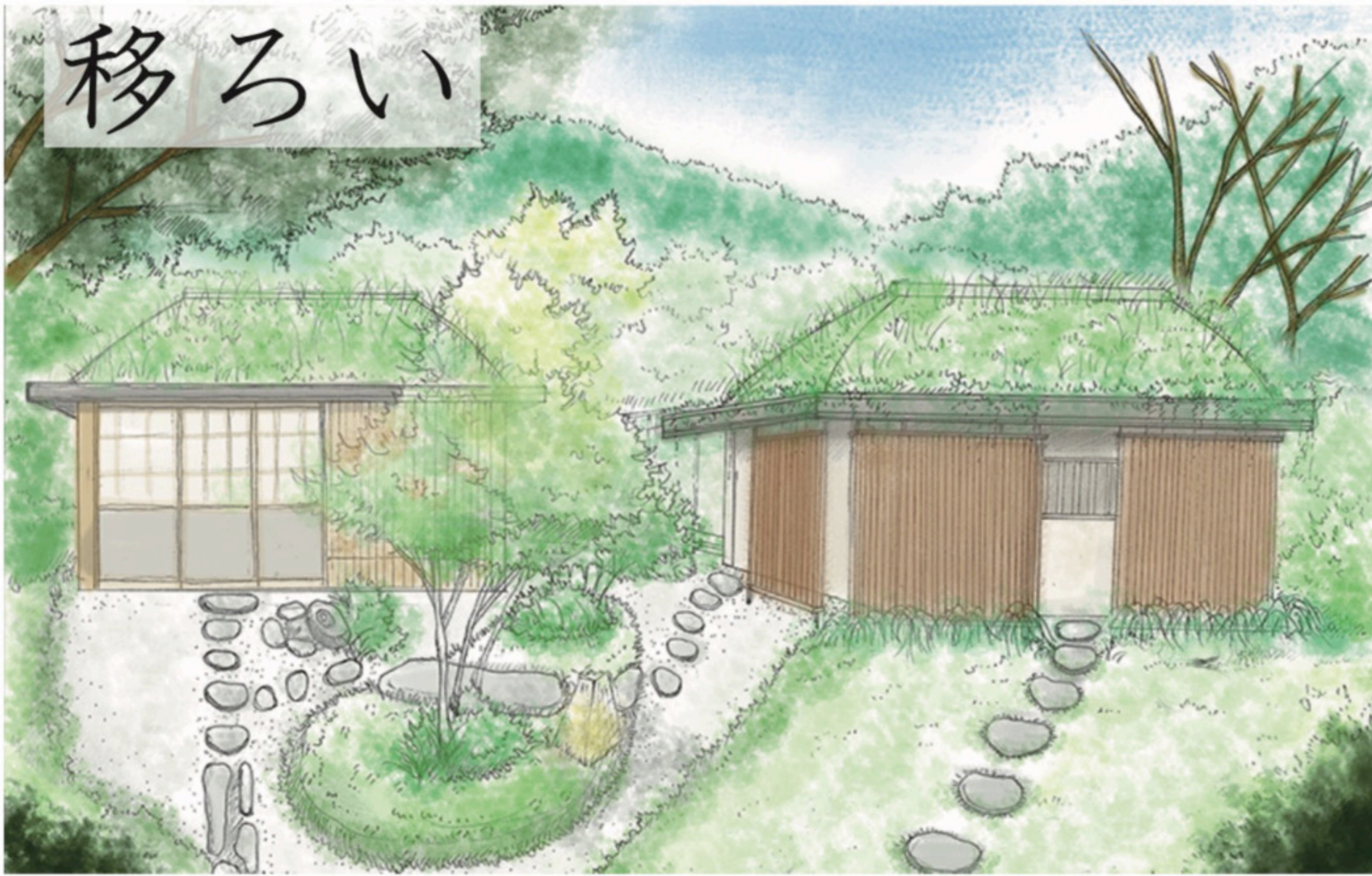


移ろい



コンセプト

植物の紅葉で四季の変化を感じ、茶室内の光環境で一日の時間の流れを知り、格子の使用や飛び石の間隔、植物の密集度、茶室内の光量で気持ちの移り変わりを誘導する。

露地：茶室まで導く山散歩道

- 日常を忘れて集中させる、期待感を高める＝山道
- ・ 飽きさせない＝散歩道

茶室：露地で高められた緊張と期待が最高に達する場

→ 茶室内の闇＝緊張感、集中
茶室の中を満たす光＝期待

調査内容

茶の湯は明かりの加減をすこぶる大切にしており、この明るさこそが茶の湯の空間の重要部分であると考えた。ここから、独特な建築様式である茶室の窓に着目し、茶室内を演出する光のあり方や茶人の光の好みについて調査を行った。

そこから、北向きの茶室は光環境が安定しているのに対し、南向きの茶室と西向きの茶室は光のコントラストを強調することができることが分かった。この調査から、時間帯が変わることにより、違った魅力を表現できる茶室を目指した。



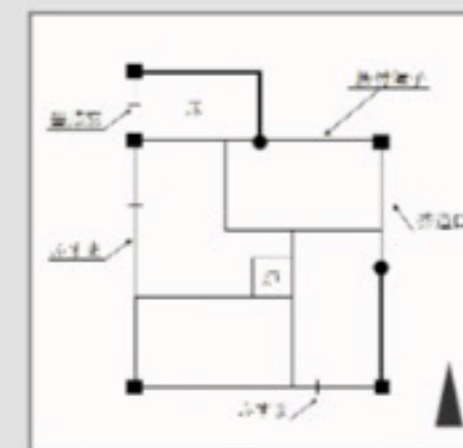
昨夢軒（北向き茶室）の
明かり障子



妙喜庵待庵（南向き茶室）の
客座



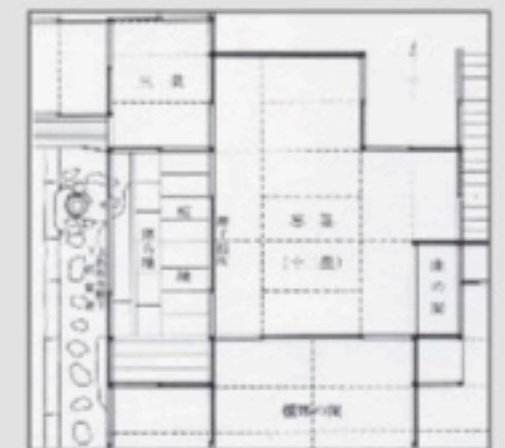
忘筌（西向き茶室）の
西側にある障子



昨夢軒（北向き茶室）の
平面図



妙喜庵待庵（南向き茶室）の
平面図

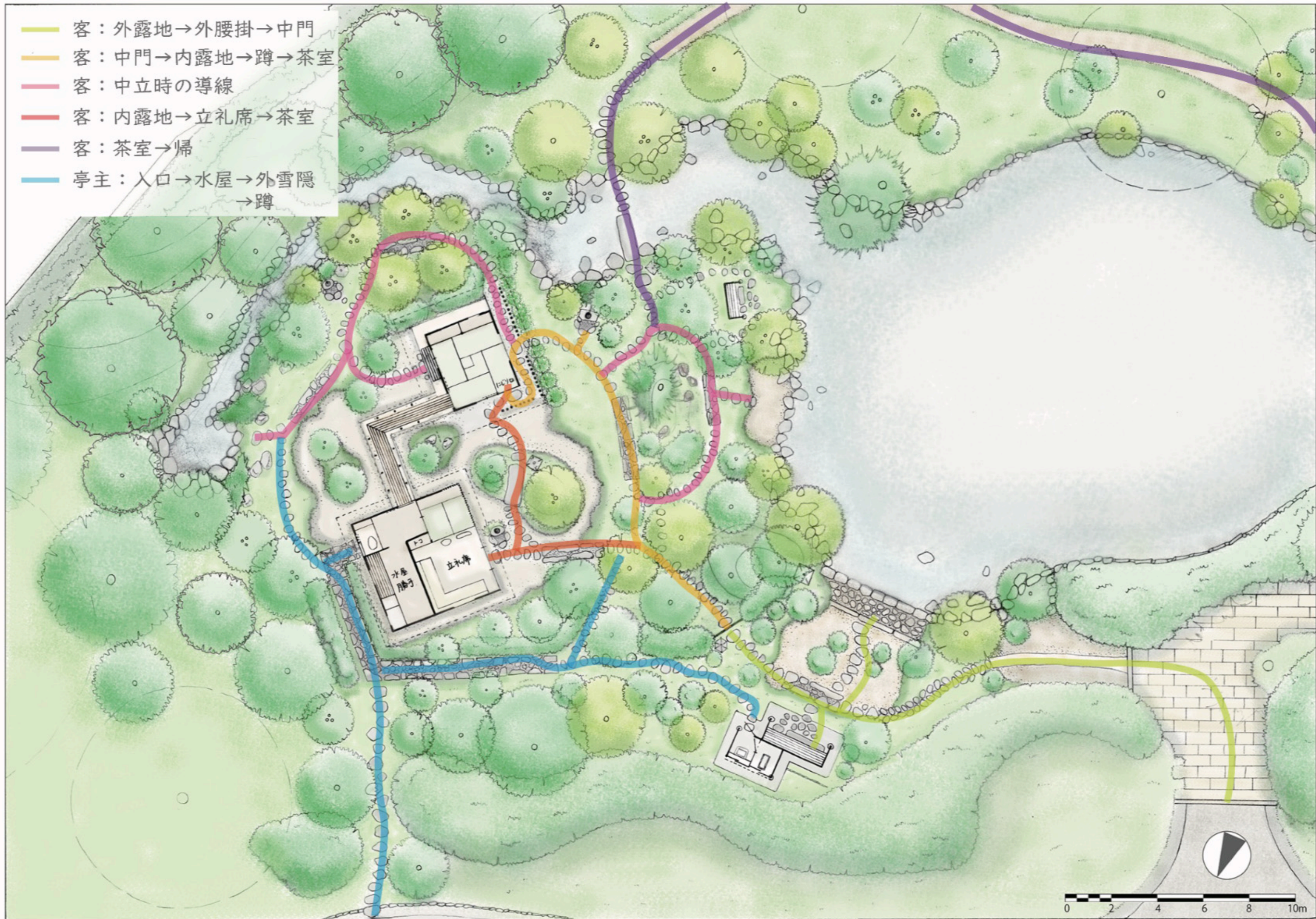


忘筌（西向き茶室）の
平面図



全体平面図 S = 1 : 100

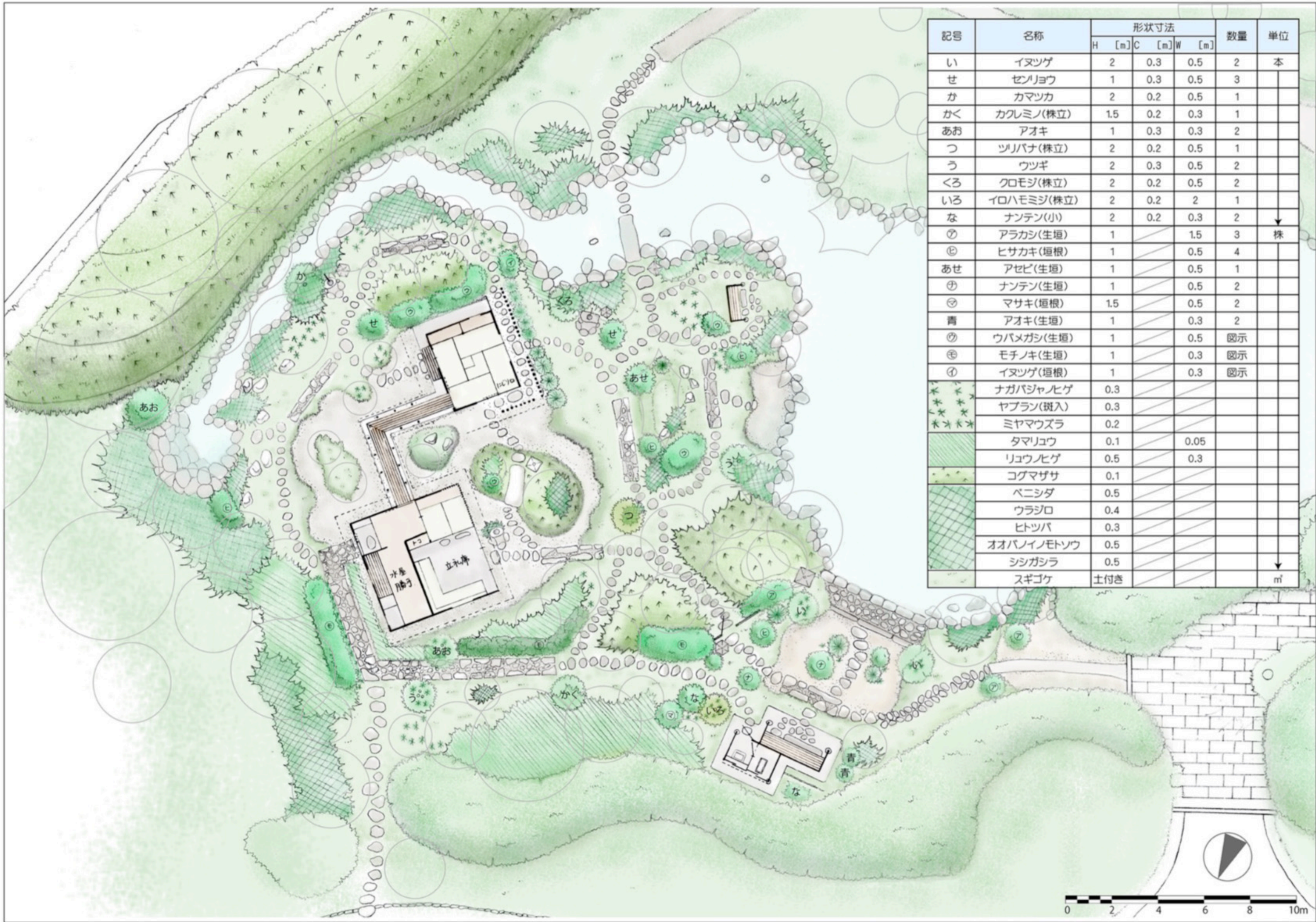
- 客：外露地→外腰掛→中門
- 客：中門→内露地→蹲→茶室
- 客：中立時の導線
- 客：内露地→立礼席→茶室
- 客：茶室→帰
- 亭主：入口→水屋→外雪隠→蹲



露地の動線図 S = 1 : 100

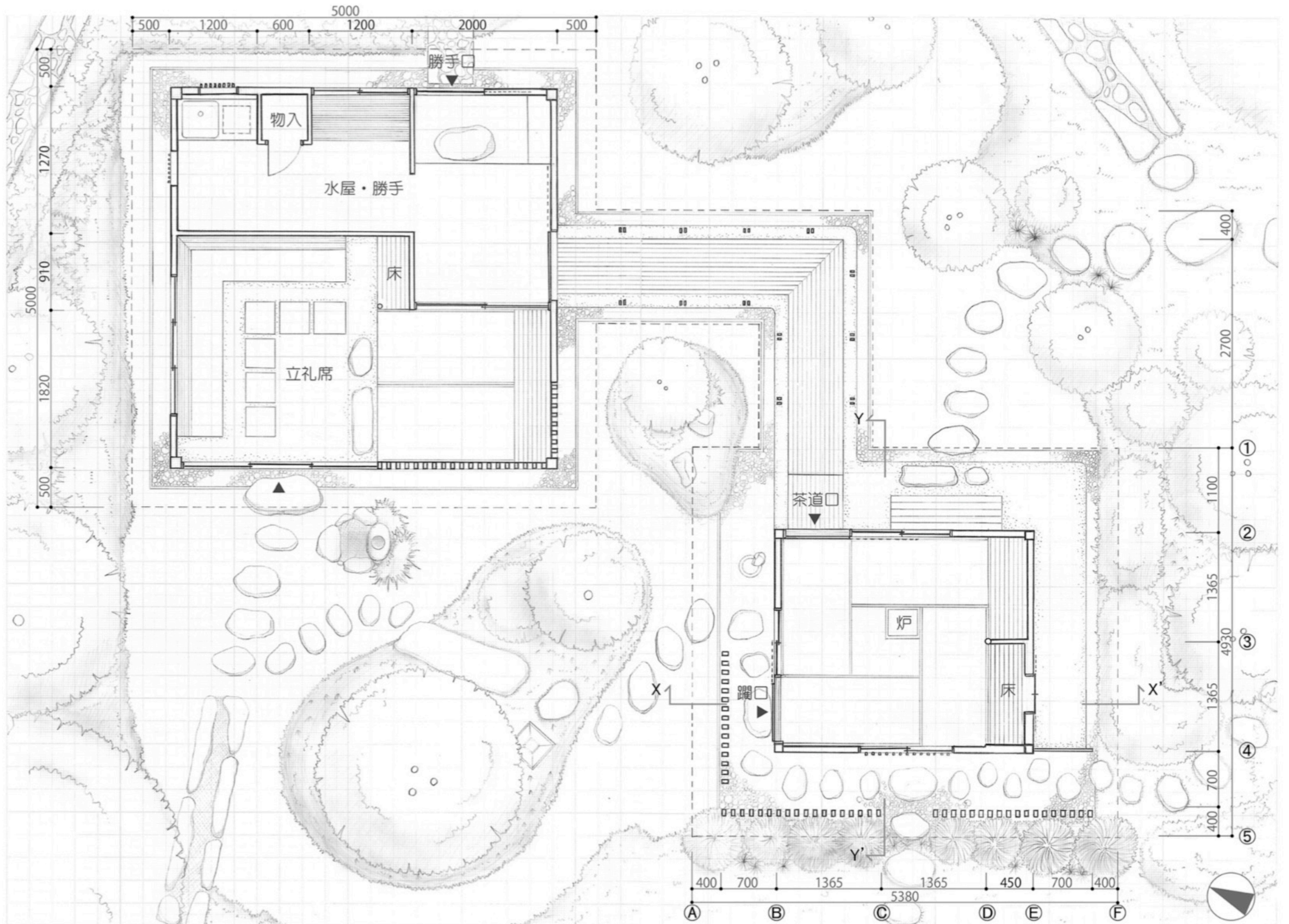


高木植栽平面図 S = 1 : 100



記号	名称	形状寸法			数量	単位
		H [m]	C [m]	W [m]		
い	イヌツゲ	2	0.3	0.5	2	本
せ	セノヨウ	1	0.3	0.5	3	
か	カマツカ	2	0.2	0.5	1	
かく	カクレミノ(株立)	1.5	0.2	0.3	1	
あお	アオキ	1	0.3	0.3	2	
つ	ツリバナ(株立)	2	0.2	0.5	1	
う	ウツギ	2	0.3	0.5	2	
くろ	クロモジ(株立)	2	0.2	0.5	2	
いろ	イロハモミジ(株立)	2	0.2	2	1	
な	ナンテン(小)	2	0.2	0.3	2	↓
㊦	アラカシ(生垣)	1		1.5	3	株
㊧	ヒサカキ(垣根)	1		0.5	4	
あせ	アセビ(生垣)	1		0.5	1	
㊨	ナンテン(生垣)	1		0.5	2	
㊩	マサキ(垣根)	1.5		0.5	2	
青	アオキ(生垣)	1		0.3	2	
㊪	ウバメガシ(生垣)	1		0.5	図示	
㊫	モチノキ(生垣)	1		0.3	図示	
㊬	イヌツゲ(垣根)	1		0.3	図示	
★	ナガバジャノヒゲ	0.3				
★	ヤブラン(斑入)	0.3				
★	ミヤマウスラ	0.2				
■	タマリユウ	0.1		0.05		
■	リュウノヒゲ	0.5		0.3		
■	コグマザサ	0.1				
■	ベニシダ	0.5				
■	ウラジロ	0.4				
■	ヒツバ	0.3				
■	オオバノイノモトソウ	0.5				
■	シシガシラ	0.5				↓
■	スギゴケ	土付き				m

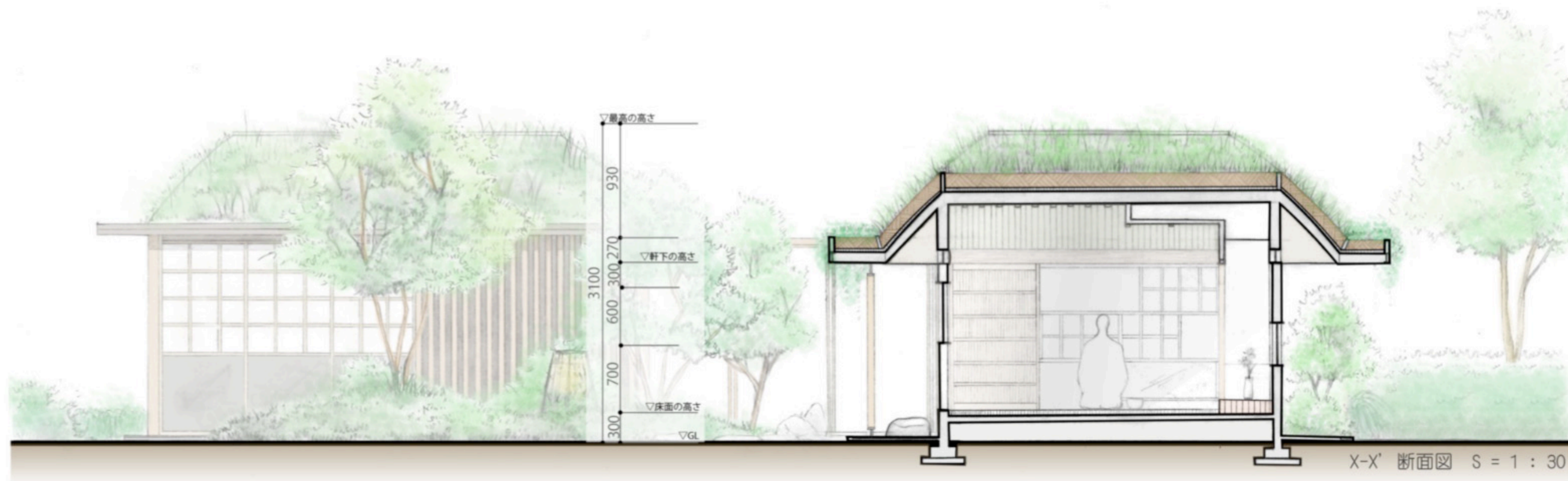
低木および地被類植栽平面図 S = 1 : 100



茶室：平面図 S = 1 : 30



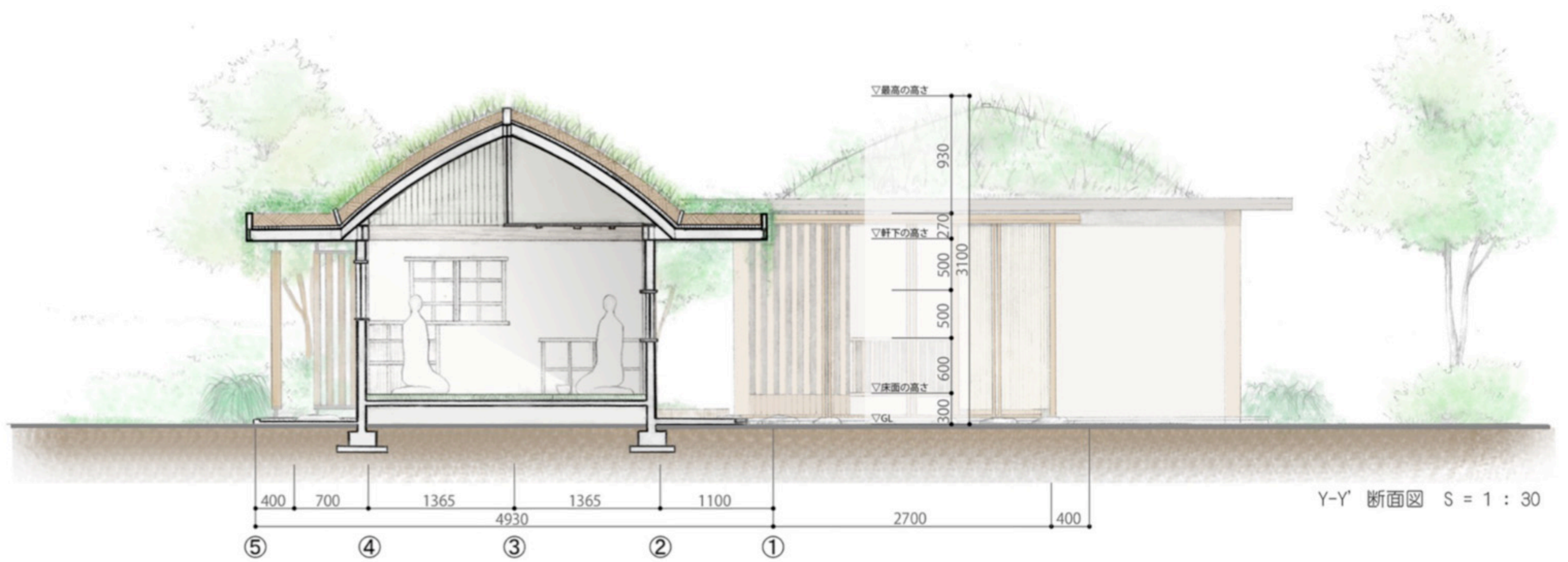
西立面图 S = 1 : 30



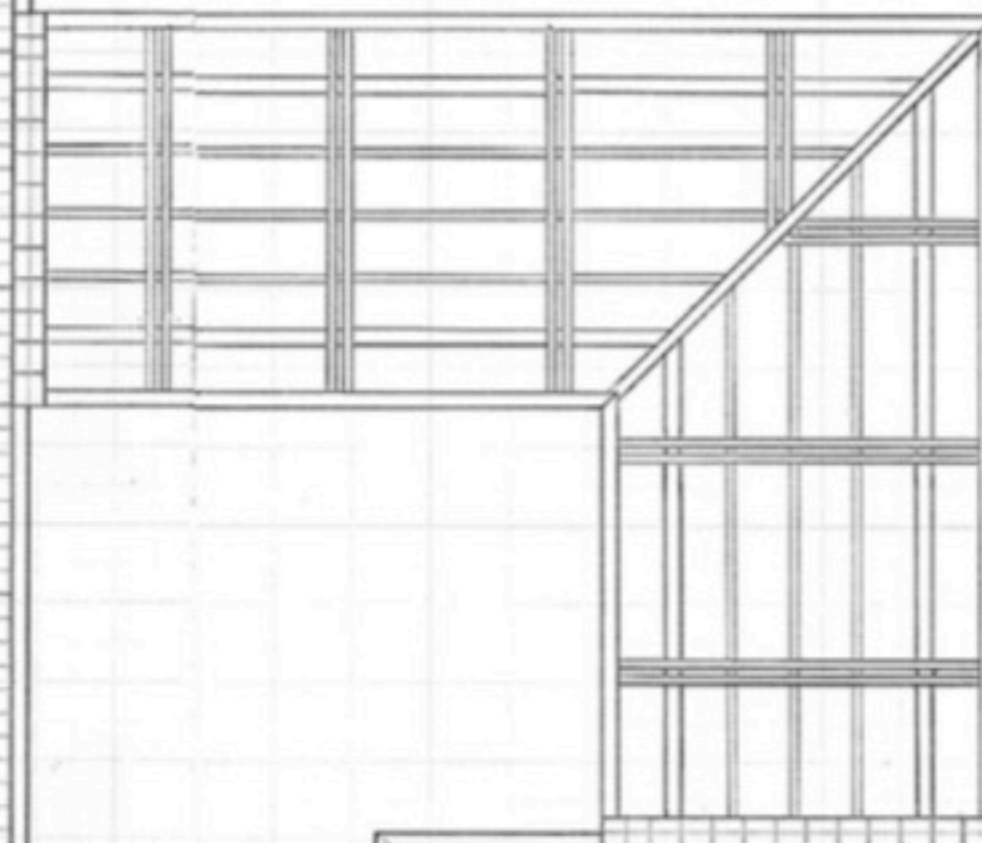
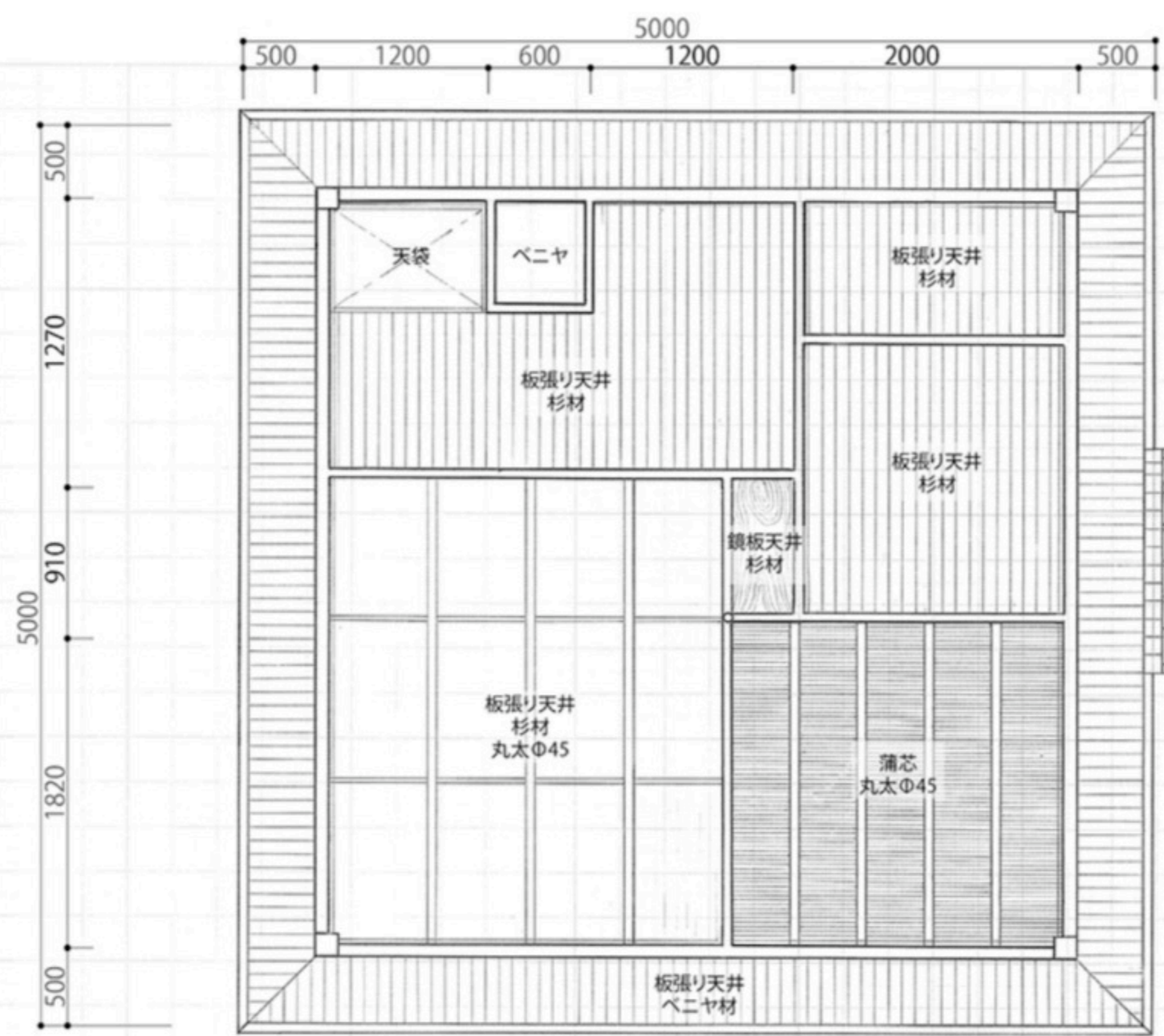
茶室；立面图·断面图



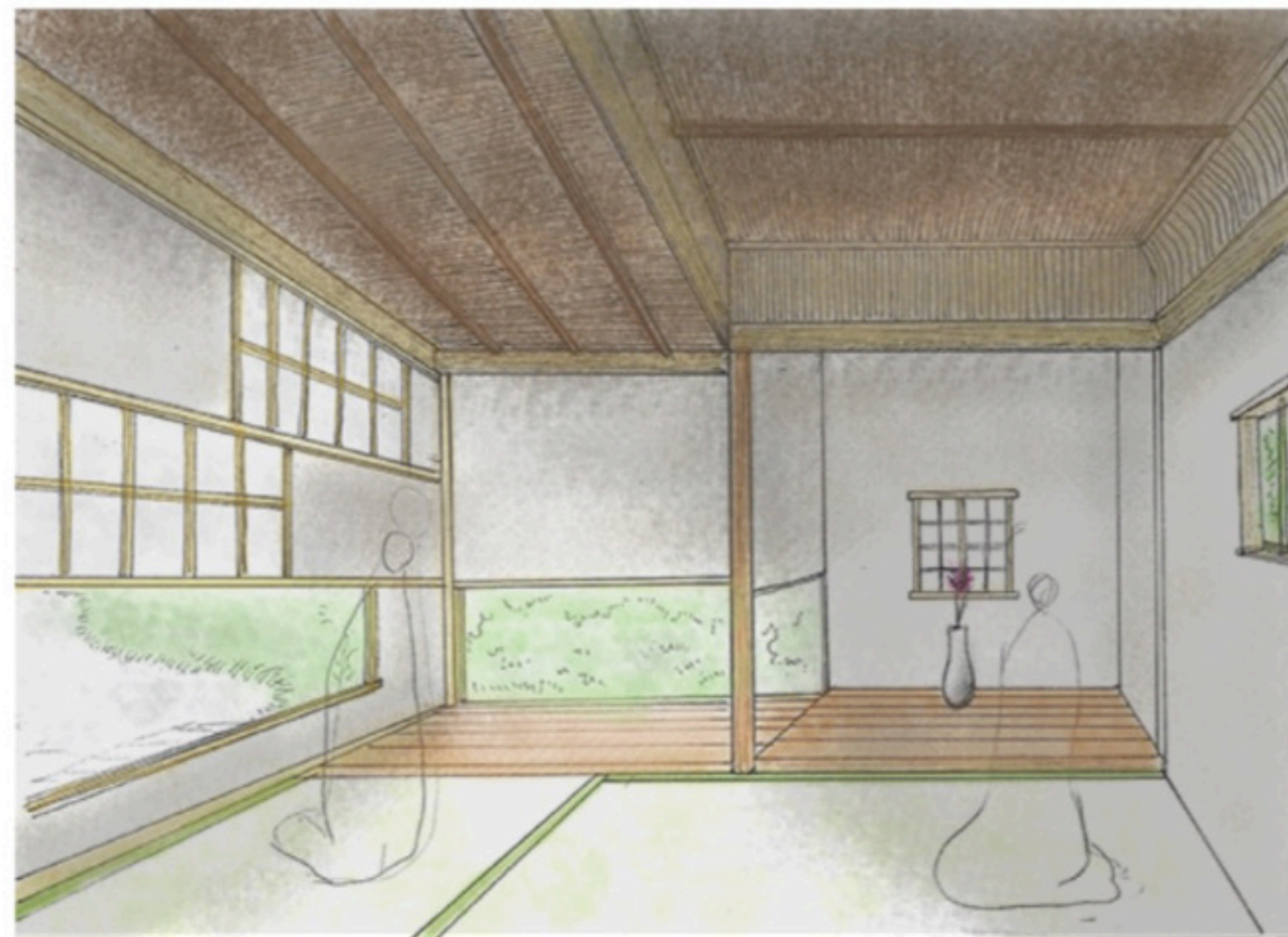
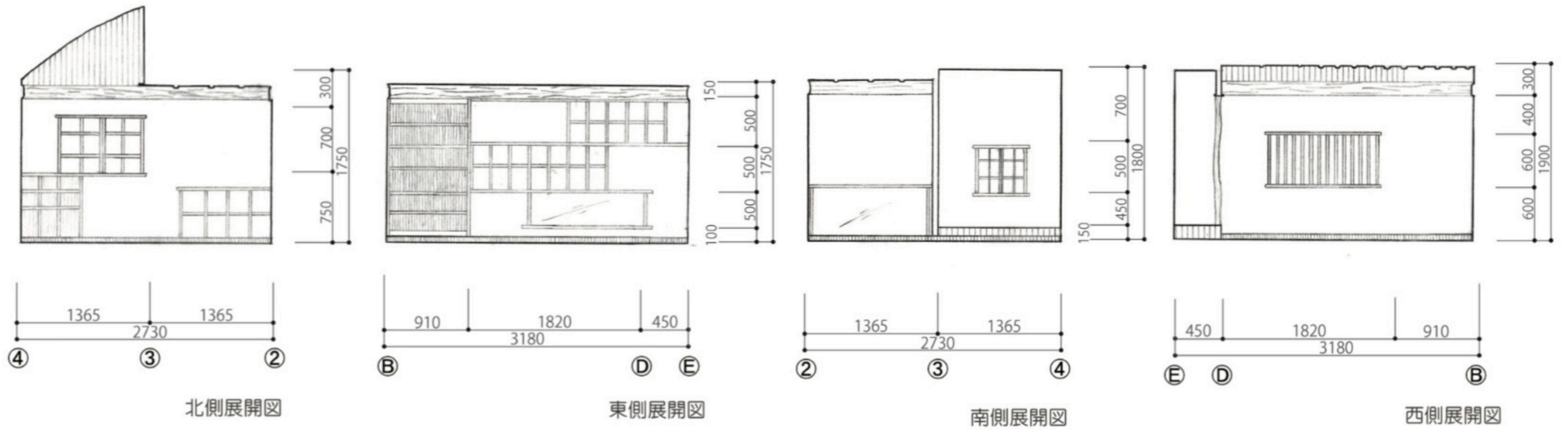
南立面図 S = 1 : 30



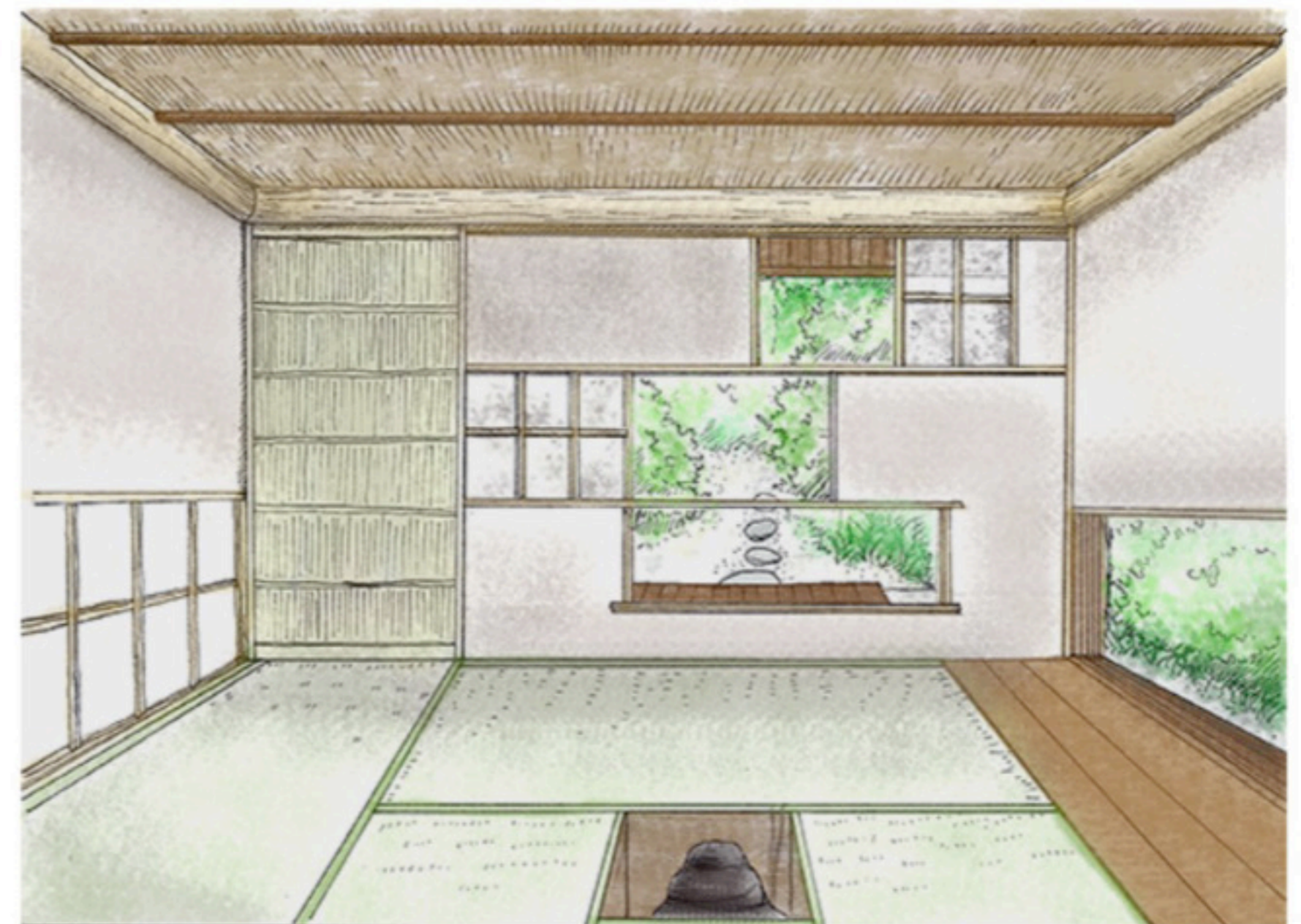
Y-Y' 断面図 S = 1 : 30



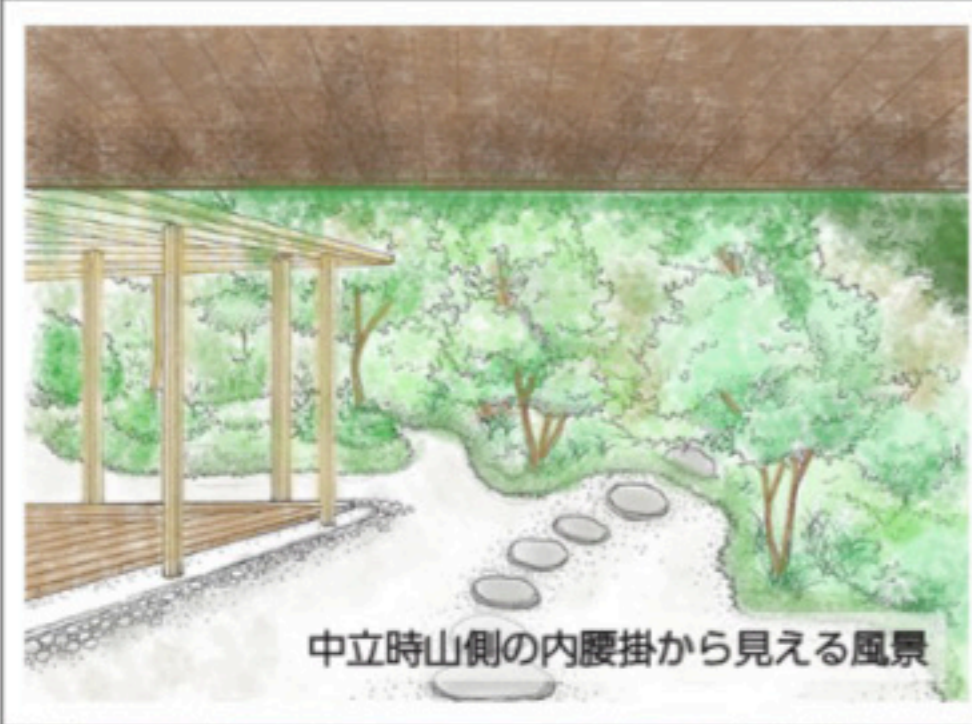
茶室：天井伏図 S = 1 : 30



茶事中のようす：東から日が入る朝の茶事時



中立後の茶室内のようす：東から日が入る朝の茶事時



中立時山側の内腰掛から見える風景



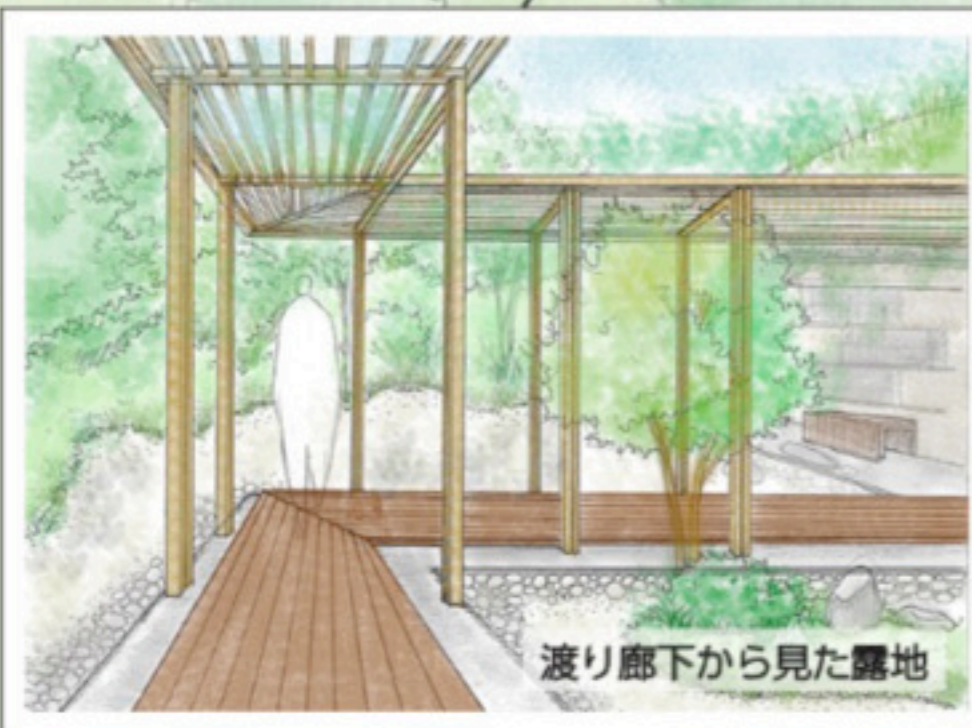
内腰掛までの格子のアプローチ
(西日が入る夕方の茶事時)



中立時池側の内腰掛から見える風景
(西日が入る夕方の茶事時)



露地からみる茶室



渡り廊下から見た露地



踊り口までの格子のアプローチ
(西日が入る夕方の茶事時)



外露地と内露地を分ける中門

